

としよかん だより

長崎市立図書館

〒850-0032 長崎県長崎市興善町1-1

☎ 095-829-4946 FAX 095-829-4948

ホームページ <https://lib.city.nagasaki.nagasaki.jp/>



ホームページスマホ版

2023.1 No.179



Topic

あかちゃんに絵本をプレゼント

長崎市では、市内にお住いのあかちゃんに絵本を1冊プレゼントしています。詳しくは、4か月児健診会場でお渡しするチラシをご覧ください。また、0歳から図書貸出券が作れますので、これからたくさんの本と出会うきっかけも一緒にプレゼントしませんか？

※絵本の引き換え・図書貸出券の作成は、
公民館・ふれあいセンターでも行っています。



Information

図書展示

- 1階特集展示 ・ アートの世界へ誘う
- 1階特別展示 ・ 芥川賞作家・平野啓一郎 講演会
「核なき世界の想像/創造」コラボ展示(～1/22)
- 2階特集展示 ・ 武士の生き方(～1/29)
- 2階特別展示 ・ 祝！開館15周年～長崎・音・楽～
・ 長崎検定に挑む！2023
- YA特集展示 ・ ジャケ読み
- YA投稿展示 ・ 今年の意気込み
- 児童特集展示 ・ はつわらい
- 児童ミニ展示 ・ 鬼はそと！福はうち！節分のおはなし

寄贈紹介 ～長崎しにせ会文庫～

長崎市で創業100年以上の老舗により構成される長崎しにせ会様は、平成21年3月に創立50周年記念事業の一つとして、多くの人に幅広く世界に通用する大きな器の人間をめざし、物事の本質を考え抜く人間になっていただきたいという趣旨で、歴史や古典など仕事に役立つ図書296冊(150万円相当)で文庫を創設されました。

その後も寄贈を続けられ、このたび20冊(5万円相当)の図書をいただきました。寄贈の累計は図書795冊 DVD12点になります。



開館状況やイベント情報などは、図書館のホームページまたは館内のポスターを確認ください。

新しい年の始まり。今号では、そんな始まりにちなんで、初めて〇〇した人を知る本やこれから何かを始めたいくなるような本を紹介します。

日本のたしなみ帖 しきたり

『現代用語の基礎知識』編集部/編
竹中 龍太/執筆
姜 信子/執筆
的場 美香/執筆
自由国民社 2015年刊
ラベル：382.1シ(2階フロア)



四季折々に旬の食べ物を味わい、時節にふさわしい身支度をする。暮らしの中のさまざまな場面で出会うしきたりや習わしを、イラストとともに紹介。

なんでも「はじめて」大全 人類と発明の物語

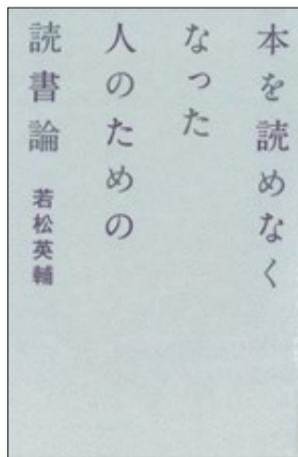
スチュワート・ロス/著
西田 美緒子/訳
東洋経済新報社 2020年刊
ラベル：031.4ロ(2階フロア)



人類がはじめて靴を履いたのはいつ？痛みを和らげるために初めて処方された薬とは？あらゆる「モノ」「コト」のはじまりを幅広く知ることができる1冊。

本を読めなくなった人の ための読書論

若松 英輔/著
亜紀書房 2019年刊
ラベル：019ワ(2階フロア)



「読めないときは、無理をして読まなくていい。読めない本にも意味があるから、積読でもいい」という著者。読めない人の心に寄り添いながら、人生に必要な言葉と出会うための読書法を模索する。

洞窟壁画を旅して ヒトの絵画の四万年

布施 英利/著
論創社 2018年刊
ラベル：702フ(2階フロア)



フランスにあるショーヴェ洞窟壁画、ラスコー洞窟壁画、レゼジー村の洞窟壁画群など、先史時代の絵画を訪ねた美術批評家の著者とその息子による旅の記録。人類が初めて描いたとされる絵を前に、「ヒトはなぜ絵を描くのか」という問いに想いを巡らせる。

ことば 事始め 池内紀

ことば事始め

池内 紀/著
亜紀書房 2019年刊
ラベル：F914.6イケ(1階日本現代)

「うるさい」「かぶれる」「虫がいい」などの日常で使われることば。それらの言葉の意味、日本語の面白さを辞書や著者の体験を通して味わえるエッセイ。